

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん(大郷)		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原口10-5		
自己評価作成日	平成27年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内中央のリビングスペースからは、いつもご利用者様達の語らいが聞こえ笑い声が溢れています。人と寄り添い一緒にいる事が当たり前のように温かい雰囲気の中で過ごされています。リビングにはくつろぎやすいソファやテーブルの配置などを考慮しており常に過ごしやすい空間を作っています。時折居眠りをされたりとのびり穏やかに過ごされています。又居室にはプライバシーが厳守されるようトイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備されており、気兼ねなく自由に使用できるようになっています。ご本人の自立した生活が継続できるように使い勝手の良さかつ安全に配慮した間取りになって居ます。又、常にご利用者様の声に耳を傾け、一緒に考え、意志に添えるよう職員が一丸となって支援をし、施設の生活ではなく家庭の生活となる様力を注いでいます。おひとりおひとりを支えるいちばん近い存在であり続けたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺には大郷文化会館、道の駅などがある。今年度全職員で作ったホーム理念「利用者様に寄り添い、語り合い、お話するように心がける」が、職員の対応に表れている。また、様々な経歴がある利用者が、個人として尊重されている様子がうかがえる。職員は利用者の状況の変化をつかみ記録し、情報を共有している。ケアの標準化を目指し、どちらのユニットでも職員が同様に対応出来るようにしている。資格取得に積極的で常に利用者のケアの質を高めようと努力している。管理者は、職員の相談にのり、キャリアアップの支援をしている。職員同士と管理者のチームワークが、利用者のケアに活かされている。家族会が定期的に開催されて、利用者と家族そしてホームの関係が深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 もも太郎さん(大郷)「1階ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で掲げている理念を全体ミーティングや会議などで認識を統一し理念に基づいて実践している。	ホームの理念「利用者様に寄り添い、語り合い、お話するように心がける」は、昨年11月全職員が検討し作成した。利用者への声かけを心掛け、忙しいときこそゆったりと対応するようにしている。理念はホールに掲示し、常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や音楽祭等建物オーナーのご協力の下地域住民との共有を図っている。又当事業所避難訓練時には地域ご近所様に声掛け参加をお願いしている。	建物オーナーの協力を得て、地域の敬老会や音楽祭に参加し、交流を深めている。ホームの災害避難訓練に地域からの参加が得られるように呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、家族の会等の施設行事を通して事例報告や認知症について支援の方法等お話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し運営状況の報告や地域や行政からのご意見を頂き、情報を共有しサービスの向上に活かしている。町担当者にご参加頂き年6回開催	2ヶ月毎に開催し、参加者は町職員、民生委員、建物オーナー、家族、教育委員の職員、ケアマネ、管理者で、ホームから事業報告、参加者からは認知症への質問等、情報交換しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情など町の担当者に連絡し取り組みについて相談したり、研修の情報等も受けながら連携を図っている。	運営推進会議に健康福祉課の職員が毎回参加しており、ホームの状況が理解されている。町の認知症・ケアマネ等の研修に計画的に参加している。往診医の確保について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人で教育委員会を制定。身体拘束・虐待等年間行事に研修として取り入れミーティング等で職員に周知している。	毎年身体拘束をしないケアの研修を行い理解を深めている。外出傾向を把握し、寄り添うケアに努めている。転倒不安がある場合には家族の了解を得てセンサーを使用している。保安上の施錠は19時～7時で、それ以外玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について話し合いを行い、職員全員からの意見を貰っている。又職員がお互い注意し合える環境作りもスローガンに掲げており、見過ごされる事の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行う予定であったが団体の都合で実施できず今季に移行。書面で各職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に於いては少しの疑問も不安材料になりえる事を考慮し分かり易く説明し解約に於いても同様問題点が残らないように理解、納得に努め聞き出しやすい体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常に於いて家族様からの要望ご意見を電話や面会時にお聞きしている。ご利用者様に関しては直接職員と話し合う事が出来ており、出された内容は職員間で話し合い運営の改善に役立てている。玄関にはご意見箱の設置もあり第三者委員も委属している。	毎年家族会を開催し、今年は認知症について資料を使い学習した。食事会・アトラクション等で家族同士が和やかに交流を図るとともに、意見を出す機会にもなっている。家族の面会時は、職員が日ごろの様子を伝え要望を聞き、申し送りノートに記入して共有を図っている。毎月のお便りは写真付きで担当職員のコメントを入れて送り、利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の業務改善書を毎月職員より提出してもらいミーティングにて話し合い運営の改善を図っている。改善書、改善報告は本社にも提出している。	全職員が毎月業務改善シートを提出し、ケアの振り返りと改善の検討を行っている。管理者とは常に相談できる環境にある。職員の見解により、ユニット毎の職員配置を固定せず、ユニット毎のレクリエーション等利用者のケアに役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や研修に於いて給与に反映できる環境にある。各人の能力に対して資格に元ずき職務に就くことも可能。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、実績に於いて、外部研修に参加できる機会を確保している。又内部研修による勉強会開催によって知識技術の習得に、教え合う事の重要性に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や後援交流会等、同業者と勉強会を通じて交流する機会を設けている。当法人内でも月数回の会議にて情報の交換共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安に思っている事や要望に対して傾聴しながら自立出来る事柄を見出している。話しやすい環境を作れる様信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時にご家族様の要望、困っている事を事前にお聞きしご家族様と共に解決できるような体制づくりを行っている。ケアプランに落とし込んでいくと共にお電話やお手紙で近況の報告も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況を把握しご利用者様やご家族との話し合いの場を設け、適切なサービスが提供できるように取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者様が共に助け合い共同生活を行う事で自立した生活を築き、信頼関係を作り上げる事が出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いを尊重しこれまでの生活と変わりなく過ごして頂けるよう努めている。家庭的な雰囲気の中で利用者様との関わりを多く持てるよう行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時友人や家族ご近所の方々との面会や外出が出来る環境を整えている。又馴染みの美容師・理髪店に通う事が出来ている。	家族、親戚、友人など来客が多い。お寺、近所の散歩、菓子屋での買い物や床屋も楽しみになっている。墓参り・温泉等家族と一緒に外泊・外出も楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でそれぞれが出来る範囲でお手伝いをしお互いに協力合っている。コミュニケーションが困難な時は職員が介入し円滑に会話が出来よう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性は失う事が無く近況の報告など連絡を取り合う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり入居者様の生活歴を知り、ご意向ご希望を重要視し対応している。困難な時はご家族様を通して趣味や意向を出来るだけ近づけられるよう情報の把握に努める。	入居時生活歴を記録している。日々の生活状況の変化を申し送りノートに記入し、朝のミーティング時に共有を図っている。夜間には0時と3時に、ユニット相互の状況を確認している。担当者は、日々の様子を把握し記録して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族様や他事業所からの情報を基に以前の生活歴やこれまでのサービス利用の背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを把握し、その方の有する力を理解し活動状況、精神状態を観察し必要に応じて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関との連携を密にし状態に添ったプランを作成している。又ご本人の希望や訴えをプランに反映し作成している。	担当職員は、本人・家族の意向をもとに、医療機関の診察内容も反映させ2～3人のモニタリングを行う。毎月全体カンファレンスでの検討をもとに、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行い、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを実施し職員からの意見、気づきや状態の変化等を共有しプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化、取り巻く環境の変動などその時々で柔軟な対応が出来るよう常に状況を把握し判断できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるよう地域との交流を図る。地域で買い物をしたり顔見知りの関係を築く事で生活に於いて安全な環境が作れる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院が来ている。基本的に通院は家族様をお願いしているが、緊急時や必要に応じて職員が対応している。通院時には利用者様情報を書面にて医師に提供している。	希望のかかりつけ医を受診している。定期的通院は家族が付添う。家族に受診時報告書にバイタルチェックのコピーを添付して渡し、受診結果を記録し、情報共有できるようになっている。受診結果は申し送りノートに記載され職員間の共有を図っている。往診が出来る医師の確保について町に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が中心となっている。常にご利用者様の健康状態を把握し緊急時には迅速に対応できるようにご家族様、医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療情報を得ている。必要に応じて施設側より情報を提供している。又身体状況に変化が見られたときは医師への相談連絡等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、段階的に家族様や医師と話し合い支援の方法を統一化し共有しながら取り組んでいく意向である。看取りの体制については医療との連携を強化していく事で家族様にお伝えしている。	入居時に、重度化における対応について、往診医がいないため、ターミナルケアが行えないことを説明し、了解を得ている。ホームでの対応が難しい状況になった場合は、医療機関や他施設への紹介等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の仕方の研修は行っていないが急変時には病院へ連絡し医師の指導の下対応を行っている。常に病院との連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署や地域の協力を得て実施している。災害時の備蓄の確認、マニュアルの見直しを図っている。	災害時避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で行った。近隣住民の参加を呼び掛けている。防災設備点検は毎年実施している。非常時の備蓄がされている。防災マニュアルの見直しを行っている。	利用者の重度化に伴う避難方法について、検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し認知症の理解に努め個々にあった支援の仕方話し方、対応に留意している。又接遇、プライバシーの研修も行い職員に意識づけを行っている。	プライバシー保護の研修は年1回行い、日常的に対応を確認している。居室入室時はノックし声がけして入る。言葉遣いは優しく、○○さん、と目を見ながら呼びかける。ゆっくりした動作を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が困っている事、不安な事要望などの訴えを傾聴し、日常生活で自立でき思いが表現できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握しゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。思いや要望を取り入れ満足感や充実感が得られるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご自分で行って頂くが、困難な方については季節や室温に見合った衣類を提供し着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせた食事形態になって居る。季節に合ったメニューやお誕生日メニュー等職員と一緒に楽しみながら食事を行っている。下膳や片付などもお手伝いを頂いている。	法人委託の管理栄養士にメニューの指導助言を得ている。メニュー作成と調理は、職員が交代で行っている。利用者と職員と一緒に食事をし、出来る利用者が後片付けなどを行っている。誕生会や季節の行事食も取り入れ、寿司をテイクアウトする等楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは一緒だが、食事形態をご本人に合わせて提供している。こまめに水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声掛けを行っている。認知症状にて困難な時は声掛けの工夫をし又、仕上げ磨きを行い、口腔の衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様に合わせて排泄リズムを把握、しトイレ誘導・パット交換等を行い、又見守りや声掛けで排泄できるよう自立排泄に向けて支援をしている。	トイレで排泄出来るように、排泄チェック表に記録し、日々の観察で排泄パターンをつかみ支援を行っている。一人ひとりの状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食物摂取での自然排便を促しているが、適度な運動、水分補給なども取り入れている。排泄のリズムの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添った入浴時間や生活のリズムの中で最も適した時間帯に実施している。拒否の利用者様に関しては誘導や言葉がけの工夫をし必要に応じては職員を変えて対応する事もある。毎日の入浴を基本としている。	法人の方針で、清潔を保つために全員毎日入浴できるよう支援を行っている。このため、皮膚疾患が少ない。お湯は都度交換している。入浴剤を使用したり、寒い時は浴室をシャワーで温めるなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムや体調に合わせて、いつでも休めるように室温調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を正しく理解し処方に合わせて内服を行う。手渡しをし飲み込むまで確認を行う。薬の変更があった時は症状の変化、血圧、体温等に留意し変化があった時は都度医師の受診や指導を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴や趣味に合わせた活動を行う。四季の行事や誕生会など企画し全員で楽しむ事が出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見や、紅葉狩り等外出を実施している。施設オーナーの協力を得て、地域の音楽祭などにも出席し楽しむ機会を設けている。	紅葉狩りやひまわりなど季節ごとの花を見に、法人の車を使い出掛けている。通院の帰りのドライブも行っている。散歩で庭の花を楽しんだり、買い物や床屋に出掛ける人もいる。地域行事への参加も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されているご利用者様は、外出や通院の際に使用されている。又使用はしないが持っているだけで安心感を得ているケースも見受けられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望にて職員が連絡又はご自身で直接連絡されており、必要に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適温・適湿管理をし明るく、家庭的な雰囲気の中で気持ちよく過ごせるよう工夫している。又ご利用者様のご希望で季節の飾りを取り入れることもある。共有のトイレ浴室は自立できる空間で安全に配慮されている。	共用空間はエアコンとヒーターで室温を、加湿器で湿度が調整されている。掃き出し窓からベランダへ出る、テレビを見る、ソファで休むなど、思い思いに過ごしている。壁には利用者作成のちぎり絵風の日めくりや、季節の絵が貼られている。利用者と職員は対面キッチンで会話をしながら、おやつや食事の準備をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間で一人になれる場所はないが気の合った方々が過ごしやすいようソファや椅子を設置、個々の思いに寄り添えるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものをお持ちいただく様お伝えしている。ご自分の家と同じ雰囲気で過ごせるよう工夫をしている。	居室にはテレビ・ベッド・浴室・洗面台・トイレ・クローゼットが設置されている。使い慣れた寝具・小物入れ等を持ち込み、自分の部屋として過ごしている。掃除は職員が毎日行い、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境、住居環境に慣れ時間が経過するにつれてご自分で出来る事が増えてきている。安全に生活が出来るように環境の整備に努めている。		

2 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん(大郷)		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原口10-5		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設中央に広いリビングスペースがあり、常に職員のお手伝いや洗濯たみ等をご自分から進んで行っている姿が多く見られています。自由に絵を描いたり作品を作ったりフロアや廊下にもその作品を目にすることが出来ます。又居室にはトイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備され気兼ねなく自由に使用が出来、プライバシーに配慮した環境になっています。ご夫婦の居室もあり広々とした空間でゆったりとした時間を過ごすことが出来ています。入浴は毎日入る事が出来、入浴好きな方にはとても好評です。共同スペースでは職員との会話を楽しんだり、入居者様同士でゲームをしたり歌ったりと、思い思いの時間を家庭的な雰囲気の中で過ごされています。常にご利用者様に寄り添い・語らいいちばん近い存在になれる様日々職員一丸となって努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺には大郷文化会館、道の駅などがある。今年度全職員で作ったホーム理念「利用者様に寄り添い、語り合い、お話するように心がける」が、職員の対応に表れている。また、様々な経歴がある利用者が、個人として尊重されている様子がうかがえる。職員は利用者の状況の変化をつかみ記録し、情報を共有している。ケアの標準化を目指し、どちらのユニットでも職員が同様に対応出来るようにしている。資格取得に積極的で常に利用者のケアの質を高めようと努力している。管理者は、職員の相談にのり、キャリアアップの支援をしている。職員同士と管理者のチームワークが、利用者のケアに活かされている。家族会が定期的に開催されて、利用者と家族そしてホームの関係が深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 もも太郎さん(大郷)「 2階ユニット 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で掲げている理念を全体ミーティングや会議などで認識を統一し理念に基づいて実践している。	ホームの理念「利用者様に寄り添い、語り合い、お話するように心がける」は、昨年11月全職員が検討し作成した。利用者への声かけを心掛け、忙しいときこそゆったりと対応するようにしている。理念はホールに掲示し、常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や音楽祭等建物オーナーのご協力の下地域住民との共有を図っている。又当事業所避難訓練時には地域ご近所様に声掛け参加をお願いしている。	建物オーナーの協力を得て、地域の敬老会や音楽祭に参加し、交流を深めている。ホームの災害避難訓練に地域からの参加が得られるように呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、家族の会等の施設行事を通して事例報告や認知症について支援の方法等お話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し運営状況の報告や地域や行政からのご意見を頂き、情報を共有しサービスの向上に活かしている。町担当者にご参加頂き年6回開催	2ヶ月毎に開催し、参加者は町職員、民生委員、建物オーナー、家族、教育委員の職員、ケアマネ、管理者で、ホームから事業報告、参加者からは認知症への質問等、情報交換しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情など町の担当者に連絡し取り組みについて相談したり、研修の情報等も受けながら連携を図っている。	運営推進会議に健康福祉課の職員が毎回参加しており、ホームの状況が理解されている。町の認知症・ケアマネ等の研修に計画的に参加している。往診医の確保について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人で教育委員会を制定。身体拘束・虐待等年間行事に研修として取り入れミーティング等で職員に周知している。	毎年身体拘束をしないケアの研修を行い理解を深めている。外出傾向を把握し、寄り添うケアに努めている。転倒不安がある場合には家族の了解を得てセンサーを使用している。保安上の施錠は19時～7時で、それ以外玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について話し合いを行い、職員全員からの意見を貰っている。又職員がお互い注意し合える環境作りもスローガンに掲げており、見過ごされる事の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行う予定であったが団体の都合で実施できず今季に移行。書面で各職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に於いては少しの疑問も不安材料になりえる事を考慮し分かり易く説明し解約に於いても同様問題点が残らないように理解、納得に努め聞き出しやすい体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常に於いて家族様からの要望ご意見を電話や面会時にお聞きしている。ご利用者様に関しては直接職員と話し合う事が出来ており、出された内容は職員間で話し合い運営の改善に役立てている。玄関にはご意見箱の設置もあり第3者委員も委属している。	毎年家族会を開催し、今年は認知症について資料を使い学習した。食事会・アトラクション等で家族同士が和やかに交流を図るとともに、意見を出す機会にもなっている。家族の面会時は、職員が日ごろの様子を伝え要望を聞き、申し送りノートに記入して共有を図っている。毎月のお便りは写真付きで担当職員のコメントを入れて送り、利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の業務改善書を毎月職員より提出してもらいミーティングにて話し合い運営の改善を図っている。改善書、改善報告は本社にも提出している。	全職員が毎月業務改善シートを提出し、ケアの振り返りと改善の検討を行っている。管理者とは常に相談できる環境にある。職員の見により、ユニット毎の職員配置を固定せず、ユニット毎のレクリエーション等利用者のケアに役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や研修に於いて給与に反映できる環境にある。各人の能力に対して資格に元ずき職務に就くことも可能。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、実績に於いて、外部研修に参加できる機会を確保している。又内部研修による勉強会開催によって知識技術の習得に、教え合う事の重要性に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や後援交流会等、同業者と勉強会を通じて交流する機会を設けている。当法人内でも月数回の会議にて情報の交換共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安に思っている事や要望に対して傾聴しながら自立出来る事柄を見出している。話しやすい環境を作れる様信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時にご家族様の要望、困っている事を事前にお聞きしご家族様と共に解決できるような体制づくりを行っている。ケアプランに落とししていくと共にお電話やお手紙で近況の報告も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況を把握しご利用者様やご家族との話し合いの場を設け、適切なサービスが提供できるように取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者様が共に助け合い共同生活を行う事で自立した生活を築き、信頼関係を作り上げる事が出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いを尊重しこれまでの生活と変わりなく過ごして頂けるよう努めている。家庭的な雰囲気の中で利用者様との関わりを多く持てるよう行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時友人や家族ご近所の方々との面会や外出が出来る環境を整えている。又馴染みの美容師・理髪店に通う事が出来ている。	家族、親戚、友人など来客が多い。お寺、近所の散歩、菓子屋での買い物や床屋も楽しみになっている。墓参り・温泉等家族と一緒に外泊・外出も楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でそれぞれが出来る範囲でお手伝いをお互いに協力し合っている。コミュニケーションが困難な時は職員が介入し円滑に会話が出来よう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性は失う事が無く近況の報告など連絡を取り合う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり入居者様の生活歴を知り、ご意向ご希望を重要視し対応している。困難な時はご家族様を通して趣味や意向を出来るだけ近ずけられるよう情報の把握に努める。	入居時生活歴を記録している。日々の生活状況の変化を申し送りノートに記入し、朝のミーティング時に共有を図っている。夜間には0時と3時に、ユニット相互の状況を確認している。担当者は、日々の様子を把握し記録して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族様や他事業所からの情報を基に以前の生活歴やこれまでのサービス利用の背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを把握し、その方の有する力を理解し活動状況、精神状態を観察し必要に応じて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関との連携を密にし状態に添ったプランを作成している。又ご本人の希望や訴えをプランに反映し作成している。	担当職員は、本人・家族の意向をもとに、医療機関の診察内容も反映させ2～3人のモニタリングを行う。毎月全体カンファレンスでの検討をもとに、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行い、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを実施し職員からの意見、気づきや状態の変化等を共有しプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化、取り巻く環境の変動などその時々で柔軟な対応が出来るよう常に状況を把握し判断できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるよう地域との交流を図る。地域で買い物をしたり顔見知りの関係を築く事で生活に於いて安全な環境が作れる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院が出来ている。基本的に通院は家族様をお願いしているが、緊急時や必要に応じて職員が対応している。通院時には利用者様情報を書面にて医師に提供している。	希望のかかりつけ医を受診している。定期的通院は家族が付添う。家族に受診時報告書にバイタルチェックのコピーを添付して渡し、受診結果を記録し、情報共有できるようになっている。受診結果は申し送りノートに記載され職員間の共有を図っている。往診が出来る医師の確保について町に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が中心となっている。常にご利用者様の健康状態を把握し緊急時には迅速に対応できるようにご家族様、医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療情報を得ている。必要に応じて施設側より情報を提供している。又身体状況に変化が見られたときは医師への相談連絡等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、段階的に家族様や医師と話し合い支援の方法を統一化し共有しながら取り組んでいく意向である。看取りの体制については医療との連携を強化していく事で家族様にお伝えしている。	入居時に、重度化における対応について、往診医がいないため、ターミナルケアが行えないことを説明し、了解を得ている。ホームでの対応が難しい状況になった場合は、医療機関や他施設への紹介等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応や初期対応の研修は行っていないが、急変や事故発生時には病院と連携を図って医師の指示の下対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署や地域の協力を得て実施している。災害時の備蓄の確認、マニュアルの見直しを図っている。	災害時避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で行った。近隣住民の参加を呼び掛けている。防災設備点検は毎年実施している。非常時の備蓄がされている。防災マニュアルの見直しを行っている。	利用者の重度化に伴う避難方法について、検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し認知症の理解に努め個々にあった支援の仕方話し方、対応に留意している。又接遇、プライバシーの研修も行い職員に意識づけを行っている。	プライバシー保護の研修は年1回行い、日常的に対応を確認している。居室入室時はノックし声がけして入る。言葉遣いは優しく、○○さん、と目を見ながら呼びかける。ゆっくりした動作を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が困っている事、不安な事要望などの訴えを傾聴し、日常の生活で自立でき思いが表現できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握しゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。思いや要望を取り入れ満足感や充実感が得られるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご自分で行って頂くが、困難な方については季節や室温に見合った衣類を提供し着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせた食事形態になって居る。季節に合ったメニューやお誕生日メニュー等職員と一緒に楽しみながら食事を行っている。下膳や片付などもお手伝いを頂いている。	法人委託の管理栄養士にメニューの指導助言を得ている。メニュー作成と調理は、職員が交代で行っている。利用者と職員と一緒に食事をして、出来る利用者が後片付けなどを行っている。誕生会や季節の行事食も取り入れ、寿司をテイクアウトする等楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは一緒だが、食事形態をご本人に合わせて提供している。こまめに水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声掛けを行っている。認知症状にて困難な時は声掛けの工夫をし又、仕上げ磨きを行い、口腔の衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様に合わせて排泄リズムを把握、トイレ誘導・パット交換等を行い、又見守りや声掛けで排泄できるよう自立排泄に向けて支援をしている。	トイレで排泄出来るように、排泄チェック表に記録し、日々の観察で排泄パターンをつかみ支援を行っている。一人ひとりの状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食物摂取での自然排便を促しているが、適度な運動、水分補給なども取り入れている。排泄のリズムの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添った入浴時間や生活のリズムの中で最も適した時間帯に実施している。拒否の利用者様に関しては誘導や言葉がけの工夫をし必要に応じては職員を変えて対応する事もある。毎日の入浴を基本としている。	法人の方針で、清潔を保つために全員毎日入浴できるよう支援を行っている。このため、皮膚疾患が少ない。お湯は都度交換している。入浴剤を使用したり、寒い時は浴室をシャワーで温めるなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムや体調に合わせて、いつでも休めるように室温調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を正しく理解し処方に合わせて内服を行う。手渡しをし飲み込むまで確認を行う。薬の変更があった時は症状の変化、血圧、体温等に留意し変化があった時は都度医師の受診や指導を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴や趣味に合わせた活動を行う。四季の行事や誕生会など企画し全員で楽しむ事が出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見や、紅葉狩り等外出を実施している。施設オーナーの協力を得て、地域の音楽祭などにも出席し楽しむ機会を設けている。	紅葉狩りやひまわりなど季節ごとの花を見に、法人の車を使い出掛けている。通院の帰りのドライブも行っている。散歩で庭の花を楽しんだり、買い物や床屋に出掛ける人もいる。地域行事への参加も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されているご利用者様は、外出や通院の際に使用されている。又使用はしないが持っているだけで安心感を得ているケースも見受けられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望にて職員が連絡又はご自身で直接連絡されており、必要に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適温・適湿管理をし明るく、家庭的な雰囲気の中で気持ちよく過ごせるよう工夫している。又ご利用者様の作品を飾り付ける事もある。。共有のトイレ浴室は自立できる空間で安全に配慮されている。	共用空間はエアコンとヒーターで室温を、加湿器で湿度が調整されている。掃き出し窓からベランダへ出る、テレビを見る、ソファで休むなど、思い思いに過ごしている。壁には利用者作成のちぎり絵風の日めくりや、季節の絵が貼られている。利用者と職員は対面キッチンで会話をしながら、おやつや食事の準備をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間で一人になれる場所は無いが気の合った方々が過ごしやすいようソファや椅子を設置、個々の思いに寄り添えるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものをお持ちいただく様お伝えしている。ご自分の家と同じ雰囲気で過ごせるよう工夫をしている。	居室にはテレビ・ベッド・浴室・洗面台・トイレ・クローゼットが設置されている。使い慣れた寝具・小物入れ等を持ち込み、自分の部屋として過ごしている。掃除は職員が毎日行い、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境、住居環境に慣れ時間が経過するにつれてご自分で出来る事が増えてきている。安全に生活が出来るように環境の整備に努めている。		